

## 第11章 用語説明

### ● 栄養塩類

植物プランクトンや藻類の栄養となる水中に溶けた物質の総称として、栄養塩または栄養塩類という。

### ● 下水道

住居環境の改善、浸水の防除のための基幹的施設。また、川、湖、海といった水環境の水質保全のための重要な施設である。

### ● 公共用水域

河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びそれに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他公共の用に供される水路（公共下水道及び流域下水道であって、終末処理場を設置しているものを除く。）をいう。

### ● こどもエコクラブ

子どもたちが楽しく環境学習・活動を行うため、環境省が平成7年に発足させた。プログラムに沿って、自然観察や酸性雨の調査をする等、様々な環境保全活動を実践している。

### ● 浄化槽

し尿（水洗トイレの汚水）と、台所や風呂、洗濯などの生活雑排水を、微生物の働きにより浄化処理する装置であり、し尿のみを処理する「単独浄化槽」（生活雑排水は未処理で放流）と、生活雑排水もあわせて処理する「合併浄化槽」の2種類がある。浄化槽法の改正等により、単独浄化槽の新設は禁止されているため、現在では浄化槽といえは合併浄化槽を指すようになってきている。

### ● 水質汚濁防止法

工場及び事業場から公共用水域に排出される水の排出を規制するとともに、生活排水対策の実施を推進すること等によって、公共用水域の汚濁の防止を図るなどを目的とした法律。

### ● 生活排水

し尿と日常生活に伴って排出される台所、洗濯、風呂等からの排水をいう。（なお、「生活雑排水」は、生活排水のうち、し尿を除くものをいう。）

### ● 全窒素及び全リン

水中の窒素及びリンの濃度が上昇し水域が富栄養化すると、透明度の低下等による景観の悪化、水道水の異臭味や浄化場濾過障害の発生、魚介類のへい死等の障害が起こる。

### ● 大腸菌群数

大腸菌そのものは無害で人体内にも大量に存在しているが、糞尿とともに排出されるので、病原菌汚染の間接的指標として重要である。

- 氾濫原

河川の堆積作用で生じた平地であり、河川の流水が、洪水時に河道から氾濫する範囲にある平野部分をいう。

- 類型指定

公共用水域が該当する水質汚濁に係る環境基準の水域類型の指定のことをいう。

- BOD（生物化学的酸素要求量） [Biochemical Oxygen Demand]

河川などに放流された排水中の有機物は、水中の微生物により酸化分解され、炭酸ガス、水、アンモニア等になり、その際、必要とする酸素量のことをいう。数値が、大きければ大きいほど、水質汚濁が著しいことを示す。

- COD（化学的酸素要求量） [Chemical Oxygen Demand]

水中の被酸化物質を酸化剤によって化学的に酸化した際に消費される酸素量で、主に、湖沼や海域の汚濁を測る代表的な指標である。数値が、大きければ大きいほど、水質汚濁が著しいことを示す。

- DID人口（人口集中区域） [Densely Inhabited Districts]

市町村の境界内で人口密度の高い調査区（原則として人口密度が4,000人/km<sup>2</sup>以上）が隣接しており、それらの地域の人口が、国勢調査時に5,000人以上を有すること。

- DO（溶存酸素量） [Dissolved Oxygen]

水中に溶解している酸素量で、溶存酸素は、水中の魚介類や好気性微生物などの呼吸に使われるので、欠乏すると魚介類のへい死や水の腐敗などが起こる。

- pH（水素イオン濃度）

水の酸性、アルカリ性の程度を示すもので、中性が7であり、それより小さい値になると酸性が強まり、大きい値になればアルカリ性が強まる。日本の河川では通常7前後で、6.5～8.5の範囲から出ると河川の生産性が低下し、水質にも悪影響をもたらす。

- SS（浮遊物質） [Suspended Solid]

浮遊物質とは水中に浮遊している粒径2mm以下の物質（砂粒、プランクトンなど）で、指定のろ過材でろ過、乾燥させてその重量を測り水中の濃度で表す。

- 75%水質値

年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べ0.75×n番目 [nは日間平均値のデータ数] のデータ値 (0.75×nの値が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる)。